

十四大都市医師会連絡協議会において展示を行いました（2018/10/29）

テーマ：十四大都市医師会連絡協議会、BCP、帰宅困難者、活断層
場所：ホテルメトロポリタン仙台（仙台市青葉区）

第57回十四大都市医師会連絡協議会が、10月27日・28日に、ホテルメトロポリタン仙台において開催され、東北大学災害科学国際研究所はブースを出展しました。協議会には全国十四都市の医師会から約370名が参加し、分科会においては、在宅医療および終末期医療の問題等について議論等が行われ、また、活断層による地震を想定した訓練も実施されました。

災害科学国際研究所からは、災害医学研究部門の江川新一教授、佐々木宏之助教、人間・社会対応研究部門の寅屋敷哲也助教、災害理学研究部門の岡田真介助教が対応し、最近の研究成果や活動を紹介すると共に、DMAT (Disaster Medical Assistance Team)の活動や東北大学病院のBCP (Business Continuity Plan)、中小企業のBCP導入ガイド、帰宅困難者の問題、仙台市に分布する長町一利府線断層帯の地表位置と学校・病院・公共施設の分布について、パネルを用いて情報発信を行いました。また、展示ブースでは、各都市から来場された医師会の方々と多くの意見交換を行うことができました。大都市で災害が発生した際に迅速に多くの命を助けるためには、あらかじめ医療機関のBCPを策定しておくことや、実際に起こりうる災害を想定した訓練を繰り返し実施することが、重要であることを改めて感じました。



展示ブースの様子

文責：江川新一・佐々木宏之（災害医学研究部門）
寅屋敷哲也（人間・社会対応研究部門）
岡田真介（災害理学研究部門）